



公益社団法人 いわて被害者支援センター

支援センターだより

発行:公益社団法人
いわて被害者支援センター
〒020-0021
岩手県盛岡市中央通3-10-2
(岩手県立県民生活センター2F)
TEL/FAX:019-621-3750
E-mail:info.niji.50@iwate-vsc.jp
URL:http://www.iwate-vsc.jp

理事長あいさつ

被害者の期待に一層応えるために

いわて被害者支援センター
理事長 細江 達郎



センターを様々なかたちで支えていただいております皆様にあらためて感謝と御礼を申し上げます。年度当初の理事会、総会を経て、今後2年間の役員が選任され、新たに3名の理事、1名の監事に就任いただきました。その後の理事会で理事長・副理事長は従来通りとなりました。被害者支援の期待が増すなか、一層心を締めつけて運営にとりくむつもりであります。これまで理事・監事として支えていただいた方に御礼申し上げます。

さて、センターは、被害者支援に関する県民の要望、期待の増加に対応して、一昨年来、さまざまな施策を展開してまいりました。特に被害者に直接お会いして行う、相談、各種支援、付き添い等の「直接支援」業務が広がっております。支援が行き届かないとされる性被害者に少しでも対応できるようにと、性暴力相談電話(はまなすサポートライン)を開設、さらに県内の利用者の利便性を考え、県北二戸市と県南奥州市に月1回出張相談所を開設いたしました。啓発活動として従来の「フォーラム」を、昨年度は県警本部との共催で「犯罪被害者等支援県民のつどい」として場所、規模を拡大して実施、350名を超える方々が参加いただいております。広報活動の拡大と相談窓口の拡充等により利用者が前年比5割以上増加しておりますが、被害者が潜在していること、被害者のニーズが多様であることを、再認識させられております。

業務の変化拡充は、支える財務的な対応が一層必要になっておりますが、賛助会員の増加、寄付金や各種助成金の拡充などには県警本部等関係の皆様にご支援をいただいております。また本年度より県当局と県警本部のご尽力で業務委託により、スタッフの拡充も可能となりました。公益社団法人化し3年となり、事務局長、経理課長および支援室長が交代になりましたが、新事務局長、経理課長はそれぞれベテランでセンターの管理事務の整備拡充に取り組んでおります。相談対応には従来のスタッフに加え業務委託の形で2名が加わり、質的量的な相談内容の変化に備えております。センターの基盤でもある、ボランティアの支援員の皆様も従来同様、相談業務の他、広報活動などの業務に意欲的に取り組んでおります。

センターは、賛助会員としての、各種ご寄付、各種募金活動、広報媒体としてのご協力等多くの皆様のボランティア的支援に支えられております。お気持ちに込められるべく一層努力してまいります。もちろん被害者支援はセンターのみで担えるものではありません。被害者・相談者の思いを中心に置きながら、警察関係はもとより、県市町村や各種団体や関係者との連携がさらに必要であります。皆様の一層のご支援をお願いします。

平成27年度通常総会を開催しました

6月7日(日)エスポワールいわてで「平成27年度通常総会」を開催しました。

理事長が「センター活動は、電話相談や直接支援活動が大幅に増加するなど、従来より質・量とも大きく変化しており、本年度においても関係機関・団体との連携を密にしながら被害者等が求める支援活動を適切に推進して行きたい」という挨拶の後、来賓の岩手県県民くらしの安全課県民生活安全課長 中野俊也様 県警察本部県民課長 中屋敷修二様からご祝辞をいただきました。

引き続き議事に入り、第1号議案「平成26年度事業報告及び収支計算の議決」第2号議案「平成27年度事業計画及び収支予算の承認」第3号議案「役員の選任につて」を審議した結果、いずれの議案も満場一致で承認されました。



(公社)いわて被害者支援センターの新役員等

(敬称略・順不同)

役 名	氏 名	所 属 団 体 ・ 役 職
理 事 長	細 江 達 郎	岩手大学・岩手県立大学名誉教授
副 理 事 長	須 山 通 治	岩手銀河法律事務所、弁護士
	阿 部 昭 典	北日本通信(株) 代表取締役社長
理 事	吉 村 浩	(公社)いわて被害者支援センター
	鎌 田 英 樹	(株)IBC岩手放送 代表取締役社長
	小 林 高	小林産婦人科医院 院長
	中 谷 敬 明	岩手県立大学社会福祉学部准教授
	織 田 信 男	岩手大学人文社会科学部教授
	智 田 文 徳	せいわ病院理事長
	石 崎 昭 彦	岩手トヨペット(株) 専務取締役 管理本部長
	森 雅 之	(有)シューズモリ 代表取締役社長
	谷 藤 典 男	(株)岩手日報社 編集局次長 兼 読者センター長
	大 崎 礼 子	被害者遺族
	吉 田 勝 彌	被害者遺族
監 事	川 村 幸 子	川村税理士事務所 所長
	長 澤 一 夫	昆司公認会計事務所 次長
参 与	根 子 忠 美	岩手県環境生活部長
	安 岡 義 敏	岩手県警察本部警務部長

平成26年度 相談活動・支援活動の概要

平成26年度は、電話相談などの相談件数は、過去最高を記録した25年度より39件減少しましたが支援活動は170件増と大幅に増加しました。

相談活動は、各企業・団体のご協力によるCSR活動広報や各種イベント、講演会場でチラシ等の配布活動を重点的に推進した結果、支援センターについて多くの皆様に周知されてきたからではと思われます。

また、開設しました出張相談所、性暴力電話相談のはまなすサポートラインへの相談も増えております。

また、それに伴い支援センター本来の活動であります直接支援件数が大幅に増加しました。支援についての警察や検察庁との連絡や付き添い、弁護士の無料相談の紹介と事務所への付き添い、裁判の傍聴支援や被害者参加制度により裁判に参加した遺族の付き添いや検察官、被害者側弁護士との連絡、自宅での相談を望まれない方については安心してお話しができる施設を借りあげての面接、性犯罪被害者の病院への付き添い、被害によりやむを得ず転居しなければならない被害者の方のために県営住宅優先入居制度の紹介と申請の付き添い、不起訴処分に対する検察審査会への審査申し立ての補助などの直接支援が大幅に増加致しました。本年度に入っても、昨年度の支援とほぼ同様のペースで行われております。

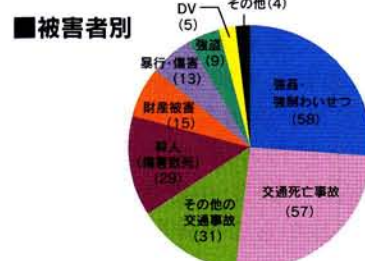
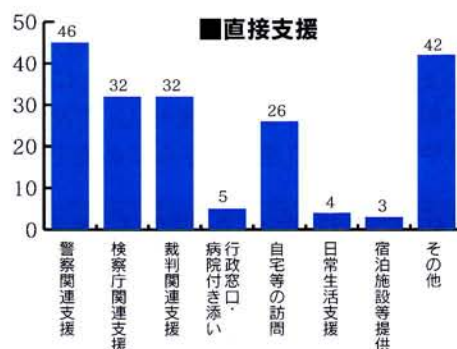
県内では、事件や事故の被害により様々な問題や悩みを抱えながら、どこに相談したら良いのかわからず、一人で苦しんでおられる方が数多くおられます。支援センターにご相談いただければ、解決の糸口を見つけることもできます。一人でも多くの方が、相談に来られることを願っております。

■直接的支援件数

区 分	直接件数
22年度	15件
23年度	22件
24年度	23件
25年度	46件
26年度	216件

■相談件数

区 分	電 話	面 接	メール
22年度	132	32	17
23年度	160	33	2
24年度	147	19	4
25年度	257	34	22
26年度	218	33	12



支援の現場から(支援員の声)

昨年から、電話相談や犯罪被害者早期援助団体としての警察からの情報提供の件数も増え、それに伴い直接支援活動は大幅に増えております。そして支援の内容も被害者や家族の状況に応じて多岐にわたってきていますので、支援にあたっては被害者等が「今、どのような問題を抱えているのか」「何を必要としているのか」その気持ちをくみ取り、的確かつスピーディに支援活動を行うことが求められています。

一回一回が気の抜けない緊張した活動ですが、被害者の笑顔や言葉はなにも被害者が少しでも前に進むお手伝いができたという確かな手ごたえが感じられることが、私たちボランティアにとり一番うれしいことです。

特に、最近は検察庁への付き添いのほか、弁護士事務所での無料相談への付き添いが大幅に増えております。このような慣れない場所でお話をしたり聞かれたりすることは大変なことで、被害者であれば尚更だと思いま

す。そのときに被害者に代わり思いを伝えたり、わかりやすい言葉で通訳してあげることが本当に必要なことだと思っております。

また、交通事故で歩けない入院被害者の方には、買物や洗濯のお手伝いをしたり1人暮らしの高齢の被害者の方には夕方の面接でお帰りが遅くなったときに手造りのお惣菜をお渡ししたりと、日常生活の負担を少しでも軽くすることも大事な支援と考えております。突然、暗い闇の中に入りこんでしまった被害者と共に同じ方向を向き、共に悩み、考えながら出口に向かって進んで行ける。そういう支援であるべきと考えております。そしてできるだけ早く被害前の生活に戻れるよう、戻れなくとも新しい生き方を見つけて生活ができるよう、必要とされるまでいつまでも寄り添っていきたいと思っております。

平成27年度「犯罪被害者支援県民のつどい」の開催

本年度も被害者遺族の方の講演の他「みやぎ被害者支援センター」理事のさとう宗幸さんから御協力をいただき、50分間のふれあいコンサートを予定しております。

入場は無料です。駐車場もありますので皆様お誘いの上ご参加ください。



日時 平成27年9月26日(土)
13時30分～

場所 矢巾文化会館(田園ホール)
矢巾町大字南矢幅13-123

第一部 主催者及び来賓挨拶、感謝状の贈呈

第二部 講演

「闇サイト殺人事件の被害者の遺族となって」

名古屋市 磯谷富美子 氏

ふれあいコンサート

シンガーソングライター さとう宗幸 氏

主催 (公社)いわて被害者支援センター 岩手県警察

協賛 岩手県犯罪被害者支援連絡会

後援 報道機関各社(予定)

養成講座の知らせ

犯罪被害者支援に携わるボランティアの募集をしております。

- | | |
|------|---|
| 募集期間 | 平成27年7月15日(月)から9月31日(水)までの間 |
| 応募資格 | 岩手県内にお住まいの方で性別・年齢・経験の有無は問いません。
犯罪被害者の支援活動に賛同し、ボランティアとして参加できる方。 |
| 応募方法 | 申し込み用紙はホームページからダウンロードしていただき支援センターの事務局までご連絡下さい。 |
| 選考 | 応募された方は書類選考の上、面接を行います。
支援活動に必要な知識を習得するため、一定の講座を受講していただきます。 |
| 問合せ先 | (公社)いわて被害支援センター事務局
電話 019-621-3750 (月から金曜日の10時30分から17時まで) |

ホンデリング

読み終えた本を寄贈していただくホンデリングについては、26年度中総冊数5,029冊うち買い取り冊数1,318冊で寄付金額91,460円となりました。

買い取りされなかった「ISBN」がついていなかった本につきましでも買い取り会社のご厚意でご寄付いただいております。ご協力ありがとうございました。



左記の新聞記事を読んで釜石の方からご手紙を頂きました

日頃の活動、本当にお疲れさまです。

毎日新聞を拝見しはじめてこういう支援があることを知りました。

この切手は毎日の買物の際のおつりそれも1円と5円だけを貯金箱に貯めたもので購入したものです。

私達夫婦は70代で年金生活、何のお手伝いも出来ませんが、何かのお役に立てればいいなと思います。

私達で出来ることがございましたら、お声をかけて下さい。

立春を過ぎたとは申せ盛岡の春はまだ遠いことでしょう。お風邪など召しませんように。

イオン黄色いレシートキャンペーン

毎月11日のイオン盛岡店の黄色いレシートキャンペーンでは、毎回1時間支援員や職員が店内でティッシュなどの配布活動を行いながら、協力を呼びかけました。その結果、支援センターには4,799,031円のレシートが投函され、イオン盛岡店様から内1%にあたる47,000円相当のギフトカードをご寄付いただき、予め申請をしておりましたコピー用紙と印刷リボンを購入しております。

ワンクリック募金

当センターのホームページにあるバナーをクリックすることで、クリックしたあなたに代わり協賛企業様から1クリックにつき10円が当センターへ寄付されます。皆様が手軽に社会貢献できる仕組みですので、1日1回のワンクリックにご協力をお願いいたします。



平成27年度出張相談所の開設

本年度も、二戸市及び奥州市水沢区において出張相談所を開設します。本年度からご利用しやすいように開催日を二戸市は毎月8日、水沢区は毎月15日としました。

なお、8月及び11月についてはいずれも開催しませんのでご注意ください。相談場所には変更ありません。

○県二戸合同庁舎 1階地域交流ルーム

○県奥州地区合同庁舎 1階県民室

相談時間は、いずれも13時～16時までで予約は不要です。

■県二戸合同庁舎

二戸市石切所字荷渡6-3
(シビックコア地区内)
TEL 0195-23-9201



■県奥州地区合同庁舎

奥州市水沢区大手町1-2
TEL 0197-22-2811



講演

26年度中被害者支援について理解と協力をいただくため、次のとおり講演を行いました。

4月23日	岩手県警察官友の会連合会総会	45名	12月1日	花巻地区犯罪被害者等支援ネットワーク総会	51名
4月24日	紫波地区少年警察ボランティア協会総会	33名	～12月		
5月1日	岩手県安全で安心なまちづくり推進協議会総会	31名	6月～12月	安全運転管理者等研修会(全12回)	1,520名
12月1日	盛岡東署被害者支援連絡会総会	45名	2月19日	久慈地区被害者連絡会総会	21名

皆様方の会費や寄付金は、公報啓発費のほか、被害者・ご遺族の支援活動(車輛借上費、支援員交通費、安全管理費、面接、相談等通信費)に活用させていただいています。